

巻頭言

湾岸戦争の終結を祈る

金森 仁作

県民の健康・文化の発展向上を願って呑兵衛らしく、「愛知県民よ、もっともっと愛知県産の地酒を愛せよ」と地酒と健康文化論を説く予定でしたが、イラクのクエート侵攻にはじまった湾岸戦争で主題を変更することにしました。

今や「一日も早い戦争の終結を願う」庶民の声も消され、戦争は長期化する様相です。

「平和」「友情」「愛」を信条とし、人とし、衛生行政官として生きて、残り僅かな人生を過ごしたいと願う私にとって、この湾岸争は悲しく、怒り、憤りをおぼえずにはおられません。

未だ核兵器や化学兵器は使用されていませんが近代兵器ミサイル弾が飛び交い、驚くべき大量の弾薬が投下され罪のない子供や市民が傷つき、生命が奪われ、ペルシャ湾には大量の原油が流出し、海を汚染しそこに生きる生き物の生存を危うくするこの戦争は、県民の健康と医療を守ることを仕事とする衛生行政官にとって無念でなりません。

戦争は、平和・友情・愛のすべてを破壊するものですし、私達の健康や地域の文化を破滅に陥れる最大の敵です。

ときに戦争は、輸血学、外科学などの発表に貢献したと主張される人もいますが、そのような事実はありません。真赤な嘘です。

戦争は、文化・文明を創造し、育てることはありません。

平成二年10月、県下・白衛隊駐屯地内で、精神障害者が国会議員を刃物で刺傷するという不幸な事件が発生しました。この患者は、政治に関連する妄想を主症状とする分裂症という診断で、自傷他害の恐れがあるという理由で知事命令（権力）で、病院に入院させた患者で、入院中の出来事でした。

精神障害者による暴力行為であり、基本的にクエート侵攻と同じです。精神障害者の人権を擁護しなければなりません市民の生命も守らなければなりません。

精神障害者やその他の病者などの人権が社会的に守られる世の中は平和な時代であります。

平和国家であってこそ、精神障害者のような社会的弱者が安心して生活できるのです。戦争の中で障害者の人権を叫ぶこともできなくなるのではないのでしょうか。

愛知県は、知を愛するところです。

名古屋コーチン、八丁味噌を肴に数多い愛知の地酒を痛飲したいものです。

県・市の美術館などで美術品に接し、豊かな心を養いたいものです。

紅嵐溪、明治村など名所・旧跡を訪れ、ストレスを解消したいものです。

ハダカ祭・能・踊と伝統文化・芸を学び、初老のエネルギー発散を許してもらいたいものです。

豊かな愛知県と県民は自己宣伝は不要なのかもしれませんが、生来下手なのかもしれませんが、私はこのような時代こそ、最近街で見かけなくなったサンドイッチマンのように愛知にPRすることに汗をかき、公衆衛生の仕事は、「衛生（健康）教育にはじまり、衛生教育に終わる」ことを痛感する昨今です。

わが郷土愛知県が生み育てた海部総理が、世界の指導者として、湾岸戦争の一刻も早い終結に貢献するため歴史上恥じることのない決断と実行をされることを心から切望します。

名古屋の冬の寒さと冷え込みは厳しいものです。私にとって二度目の冬で、今年は湾岸戦争拡大のため心臓までが凍えそうです。暖かな陽ざし、「愛」と「友情」の灯火が消えることなく大きく強くなって心臓が再び躍動することを祈ります。

(愛知県衛生部長)